

# アルミニウム製庇

Visor

## 取扱説明書

### お使いになるお客様へ

製品をいつまでも安全に美しく使っていただくために、この説明書を必ずお読みいただき、お手元に保管くださいますよう、お願い申し上げます。

### 注意

いつまでも製品を美しく保つために、以下の点をお守りください。

アルミニウムは耐蝕性の良い素材ですが、排気ガス、バイ煙、砂、泥などが表面に付着したまま長期間放置しますと、化学的反応や電気化学反応などが表面を侵し、腐食を発生することもあります。定期的なメンテナンスを行うことをお勧めします。

#### かるい汚れの場合

水で濡らした柔らかい布やスポンジなどで汚れを拭き、その後、水をかけて汚れを流してください。手の届かない場所はモップ等を使用し庇には乗らないようにしてください。

#### 落ちにくい汚れの場合

中性洗剤をぬるま湯でうすめ、柔らかい布やスポンジを使用し汚れを落とします。そのあと洗剤が残らないように、十分水洗いをしてください。洗剤が残っていると腐食の原因となります。

《清掃の目安》

立地条件	清掃回数
臨海工場地帯	1～2回／年
海岸・工業地帯	1回／年
市街地	0.5～1回／年
田園地帯	0.5回／年

### 注意

製品の安全を確保するために、以下の点をお守りください。

- ・転落の恐れがありますので、庇に乗ったりぶらさがったりしないでください。
- ・庇が破損する恐れがありますので、カタログ記載の耐積雪高を超える前に必ず雪降ろしを行ってください。

# Visor アルミニウム形材製庇

## (RS-K・KT・KR型)

### 施工要領

確実な施工を行い、製品の安全を確保するため、施工前にこの「施工要領」を必ずお読みください。

#### — 目 次 —

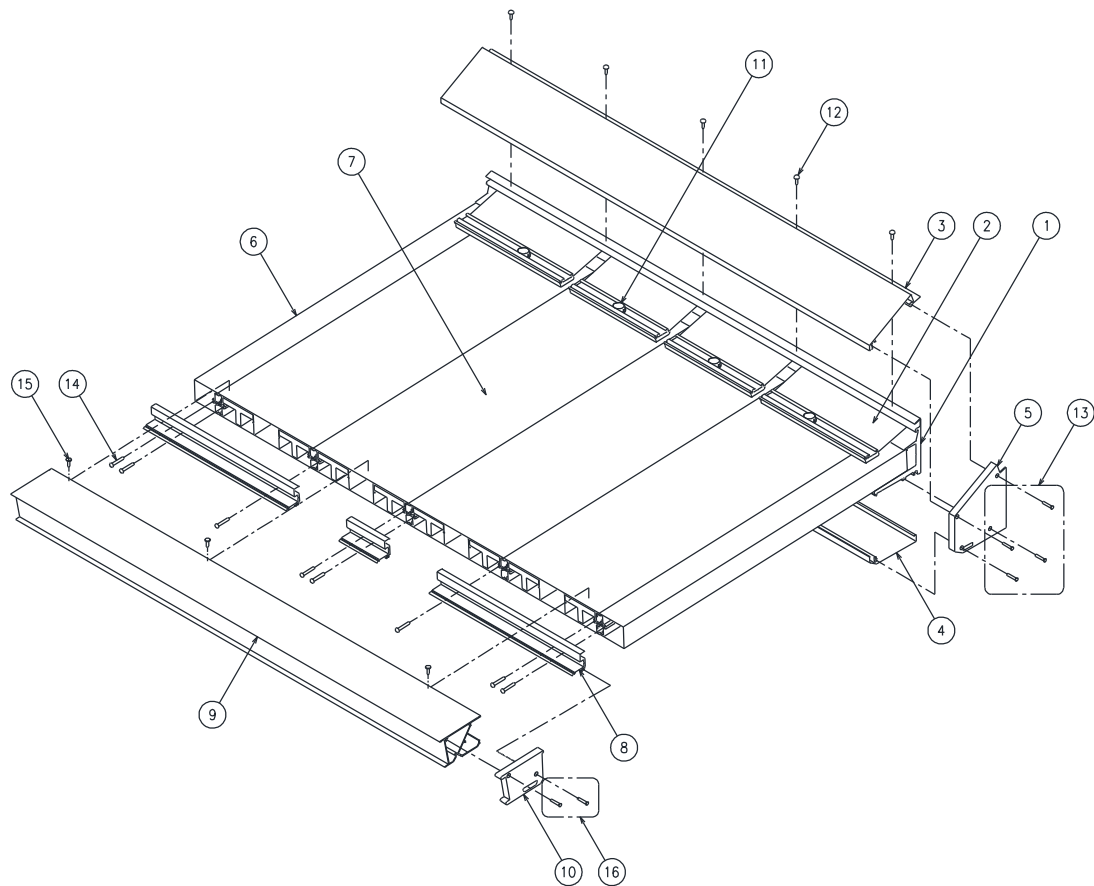
施工上の注意点	_____	1
部材名称	_____	2
アンカー取付要領	_____	3
施工手順	_____	3

#### 施工上の注意点

- 転落や破損の恐れがありますので、庇に乗ったりぶらさがったりしないでください。
- ねじやボルトは全て確実に締めてください。
- 施工後、ねじやボルトにゆるみやガタつき、その他使用上危険な箇所等がないか確認してください。
- 庇の角度は指定角度範囲内で使用してください。
- 正規の施工方法以外での取付けや、改造等を行わないでください。

※ 改良のため、予告なく製品の一部を変更する場合があります。御了承ください。

## ■ 部材名称



(部材名称 一覧表)

番号	部 材 名 称	備 考
①	壁軸材	
②	パネル軸材	A (L=220) 、 B (L=180) 、 C (L=220)
③	カバー材 (大)	
④	カバー材 (小)	
⑤	壁軸材小口蓋	左右各 1 枚 ※アルミ板製あり
⑥	端部材	幅 50、100
⑦	中間材	幅 200 ※内部に防音材
⑧	先端見切ブラケット	L=80、L=400、L=480
⑨	先端見切材	K 型 (先端樋無) 、 KT 型 (先端樋付) 、 KR 型 (先端 R 形状)
⑩	先端見切小口蓋	左右各 1 枚 ※アルミ板製あり
⑪	中間材取付用貫通ボルト	六角ボルト M8×65、平座金、フランジ付ナットセット スチール製 三価クロメート
⑫	カバー材 (大) 取付ねじ	十字穴付きなべドリルねじ φ4×13 ステンレス製
⑬	壁軸材小口蓋取付ねじ	十字穴付き皿タッピンねじ φ4×16 (小頭 D6、ガイド付) ステンレス製
⑭	先端見切ブラケット取付ねじ	十字穴付きトラスタッピンねじ φ4×25 (ガイド付) ステンレス製
⑮	先端見切取付ねじ	十字穴付き皿ドリルねじ φ4×13 (小頭 D6) ステンレス製
⑯	先端見切小口蓋取付ねじ	十字穴付き皿タッピンねじ φ4×16 (小頭 D6、ガイド付) ステンレス製
⑰	歯付座金+角座金	内歯付座金 スチール製 三価クロメート、32×32×t2.3 (M12 用) スチール製 三価クロメート

※先端見切ブラケット L=400 は端部に使用します。 ※パネル軸材 A (L=220) 、 C (L=220) は端部に使用します。

※取付順序については、次頁「施工手順」を参照してください。

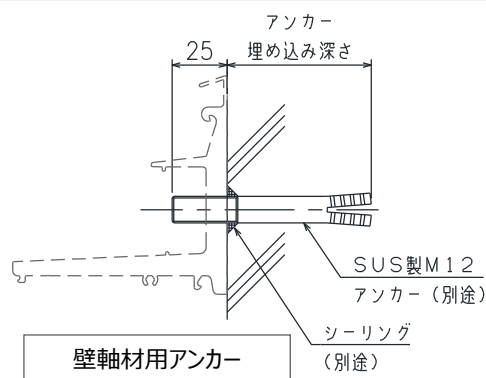
## ■ アンカー取付要領

①壁軸材用アンカーは右図のように**取付面から25 mm**突き出すようにしてください。

※アンカーの埋込み深さは使用するアンカーの規定寸法を守って取付けてください。

※内部への浸水防止のためにアンカーの周りに防水シール（別途）を施してください。

※あと施工アンカーによる施工は RC 躯体のみです。



**注意**

アンカーの埋込み深さは、仕上モルタルやタイル等の仕上材の厚みを含まず、躯体部分に確実に入るように入ってください。

※アンカー取付位置については、別紙図面にてご確認ください。

## ■ 施工手順

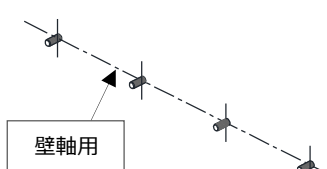
1

アンカー図に基づき墨出しを行い、アンカーを取付けます。

・壁軸材用アンカー：M12（別途）

（用意するもの）

M12 アンカー（別途）



**注意**

躯体によりアンカーピッチを変更する場合は、壁軸材に新設穴をあけて取付けてください。アンカー数は減らさないでください。

2

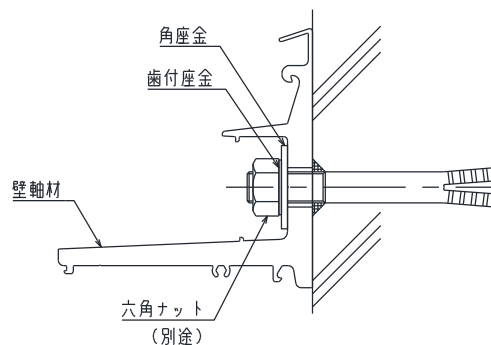
壁面の出入りを調整して壁軸材を取付け、アンカーを締付けます。

※付属の「**歯付座金**」「**角座金**」を必ず使用してください。（右図参照）

※水勾配を適正に確保しないと水漏れの原因になります。

（用意するもの）

壁軸材、ステー取付ブラケット、歯付座金、角座金、六角ナット



**注意**

中間材には上下があります。貫通ボルト取付穴脇に刻印がある面を上側になるように取付けてください。

（左下図／拡大図参照）

**上下逆に取付けると水漏れの原因となります。**

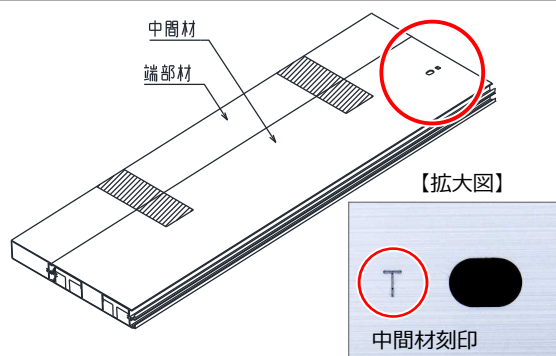
3

最初に取付ける端部材（左端用）と中間材を養生テープ等で一体化してください。

※組立終了まで端部材と中間材は離れないようにしてください。

（用意するもの）

端部材、中間材

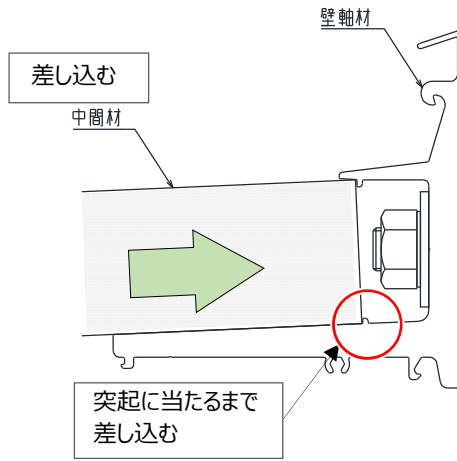


#### 4

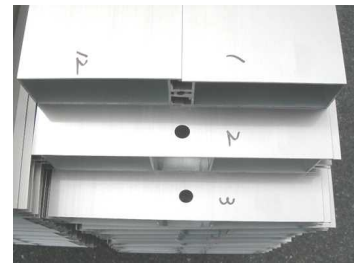
端部材と中間材を**壁軸材の突起に当てるまで差し込み**、壁軸材にセットします。

※施工は壁に向かって左側から施工します。

(用意するもの)  
端部材、中間材



#### ⚠️ ステンカラー時の注意点



端部材、中間材は壁に向かって左から番号の小さい順に取付けてください。(上写真参照)

#### 5

中間材をパネル軸材で挟み込みます。

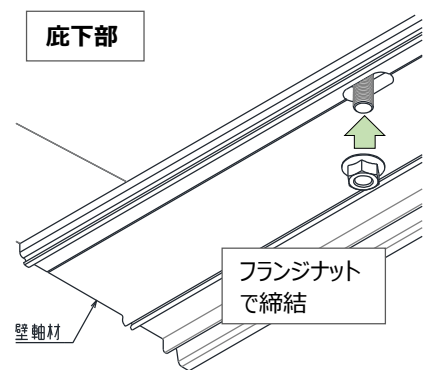
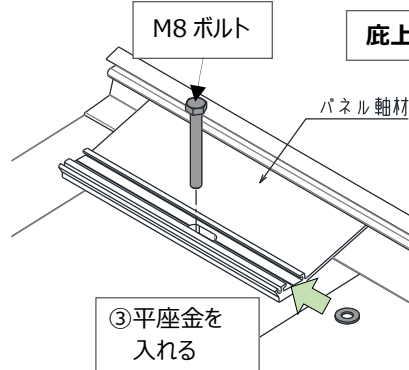
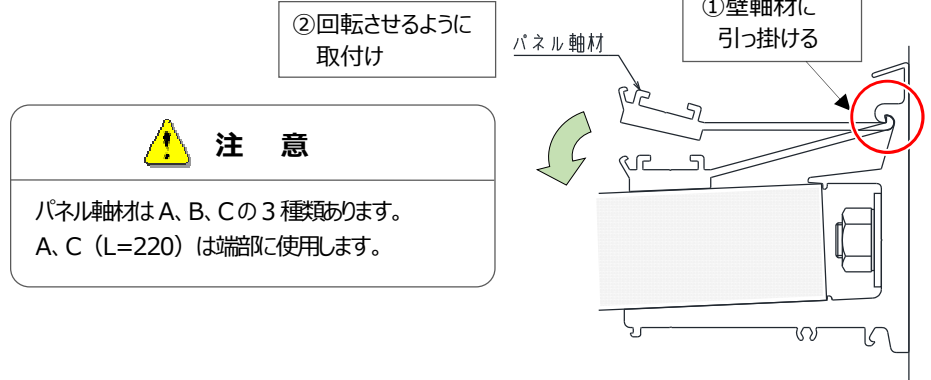
パネル軸材は右図のように、

①上部を壁軸材に引っ掛けて、

②回転させるように取付けます。

③パネル軸材に平座金を入れて、六角ボルト、フランジナットでパネル軸材と中間材、壁軸材を締結します。

(用意するもの)  
パネル軸材 (A、B、C)  
六角ボルト  
フランジナット、平座金、中間材



#### 6

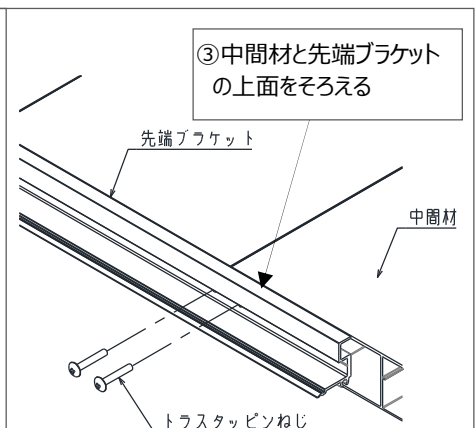
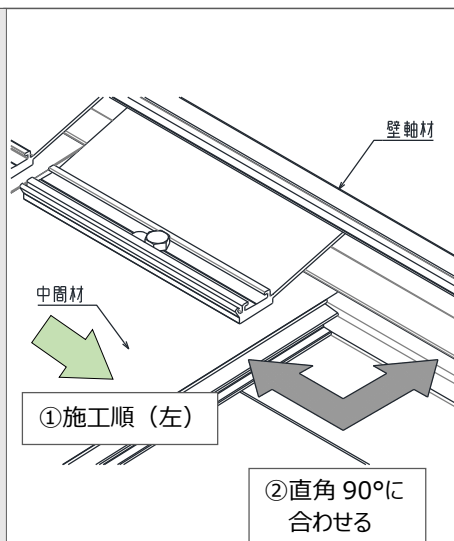
①手順 5 の要領にて中間材およびパネル軸材を左側から順に施工します。

②中間材と壁軸材を直角に合わせ、

③2~3 本毎に先端をそろえて④先端ブラケットをトラスタッピンねじにて固定します。手順 5~6 を繰り返して、全ての中間材を壁軸材に取り付けます。

※先端ブラケットの上面と中間材の上面を揃えて別紙「先端ブラケット割付図」に従って固定してください。

(用意するもの)  
先端ブラケット、トラスタッピンねじ



【側面図】



## 注 意

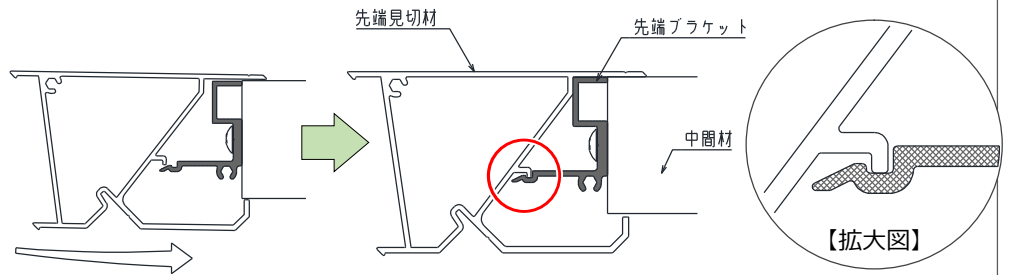
中間材を奥まで差し込んでいなかったり、直角がでないだと先端がそろわなくなる事があります。

**少なくとも1mlに1回は直角と幅を確認してください。** 先端は必ずそろえてからブラケットの取付けをしてください。

### 7

先端見切材を取付けます。  
先端見切材をやや上向きにし、  
正面からセットします。

※**拡大図の状態**になっていること  
を確認してください。  
(用意するもの) 先端見切材

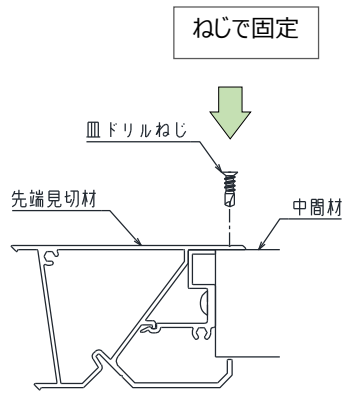


### 8

先端見切材上部の穴に合わせて付属の皿ドリルねじで  
固定します。

※ねじ固定時に中間材と先端  
見切材の間に切粉が入らな  
いよう注意してください。

(用意するもの)  
先端見切材、皿ドリルねじ

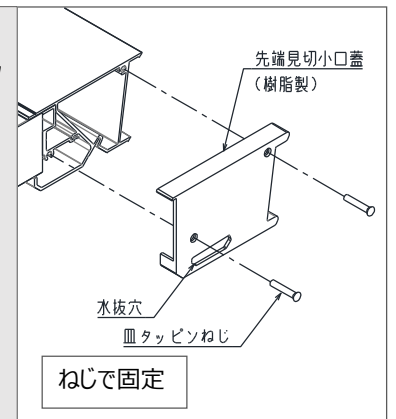


### 9

先端見切小口蓋を付属の皿タッピンねじで取付けます。

※小口蓋には「樹脂製」と「アルミ  
切板製」があります。「樹脂製」  
の場合は先端見切材に被せる  
ようにして取付けてください。

(用意するもの)  
先端見切小口蓋、  
皿タッピンねじ



### 警告

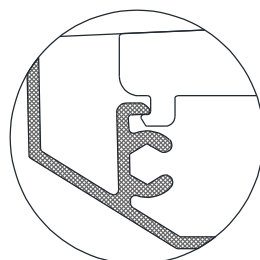
小口蓋の水抜穴はふさがらないで  
ください。水漏れの原因になります。

### 10

カバー材 (小) を取付けます。  
右図のように①壁軸材に引っ掛け、②回転さ  
せてパチンと音がするまで強く押し込みます。

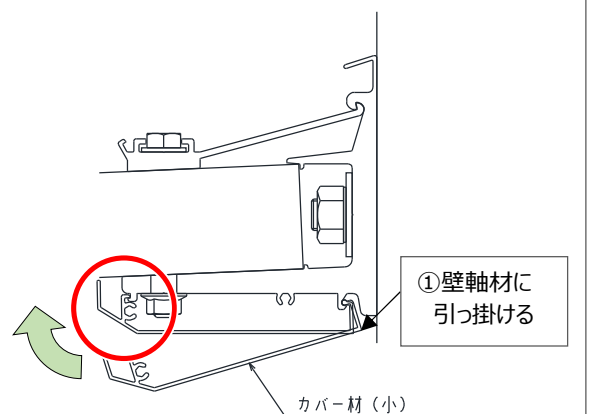
※**拡大図の状態**になるまで強く押し込み  
ます。押し込みにくい場合は当て木をして  
軽く叩いてください。

(用意するもの) カバー材 (小)



【拡大図】

②回転させて  
押し込む



## 11

カバー材（大）を取付けます。

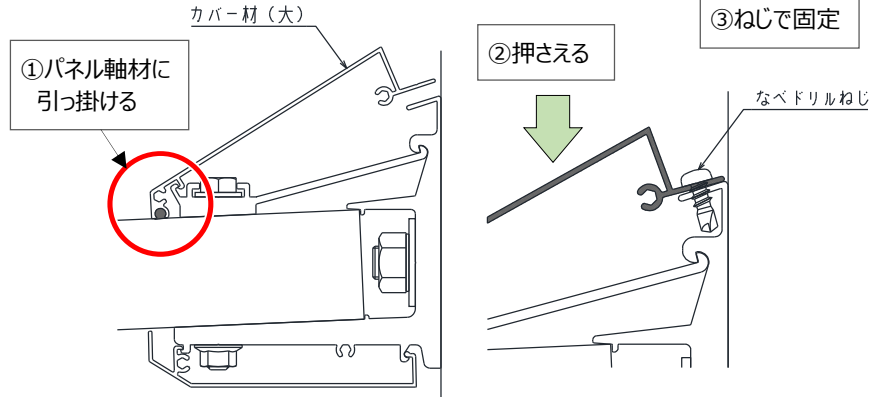
- ①カバー材（大）をパネル軸材に引っ掛け、
- ②カバー材（大）を押さえながら③付属のなべドリルねじで壁軸材に固定します。

※カバー材（大）がパネル軸材に引っ掛かっていることを確認してください。

※両端部は 200 mm以内、それ以外はピッチ 600 mm以内で取付けてください。

（用意するもの）

カバー材（大）、なべドリルねじ



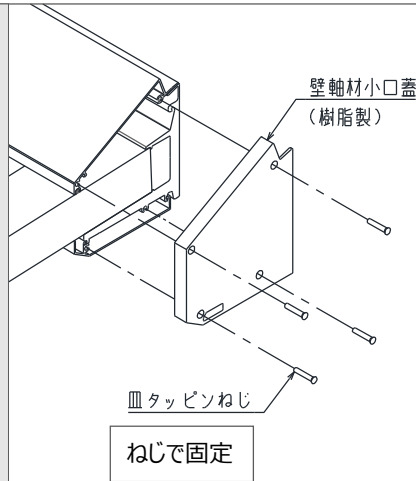
## 12

壁軸材小口蓋を付属の皿タッピンねじで取付けます。

※小口蓋には「樹脂製」と「アルミ切板製」があります。「樹脂製」の場合は先端見切材に被せるようにして取付けてください。

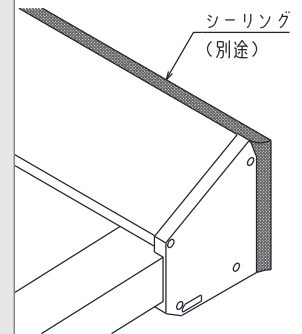
（用意するもの）

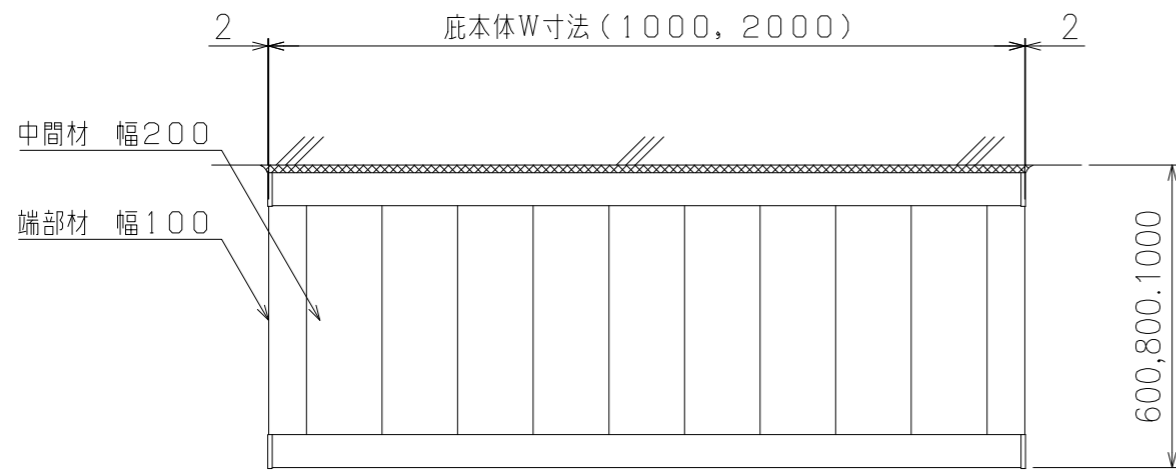
壁軸材小口蓋、  
皿タッピンねじ



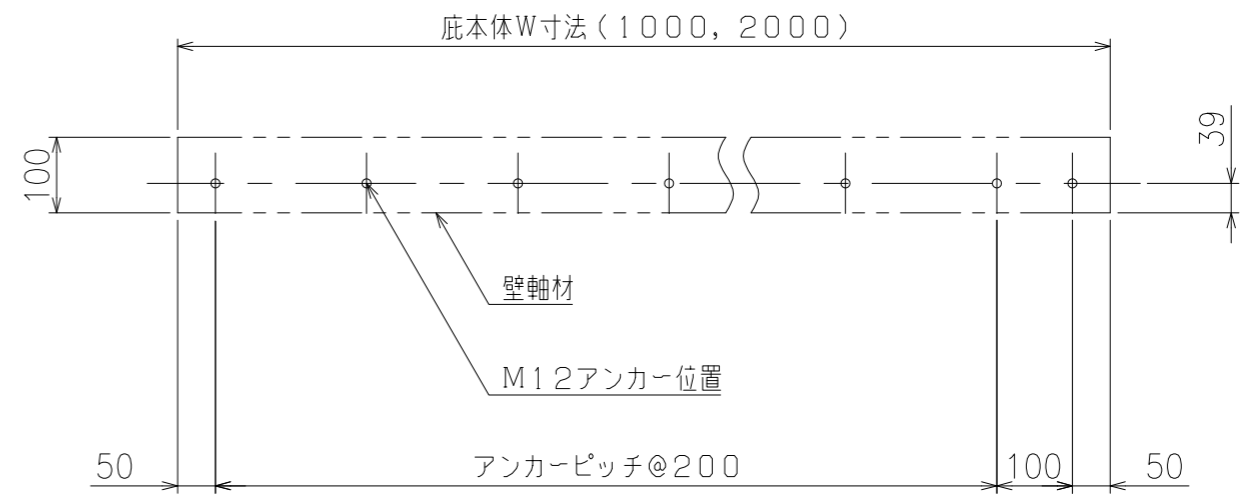
## 13

壁軸材上部・端部に防水シール（別途）を施します。





平面図 1:20

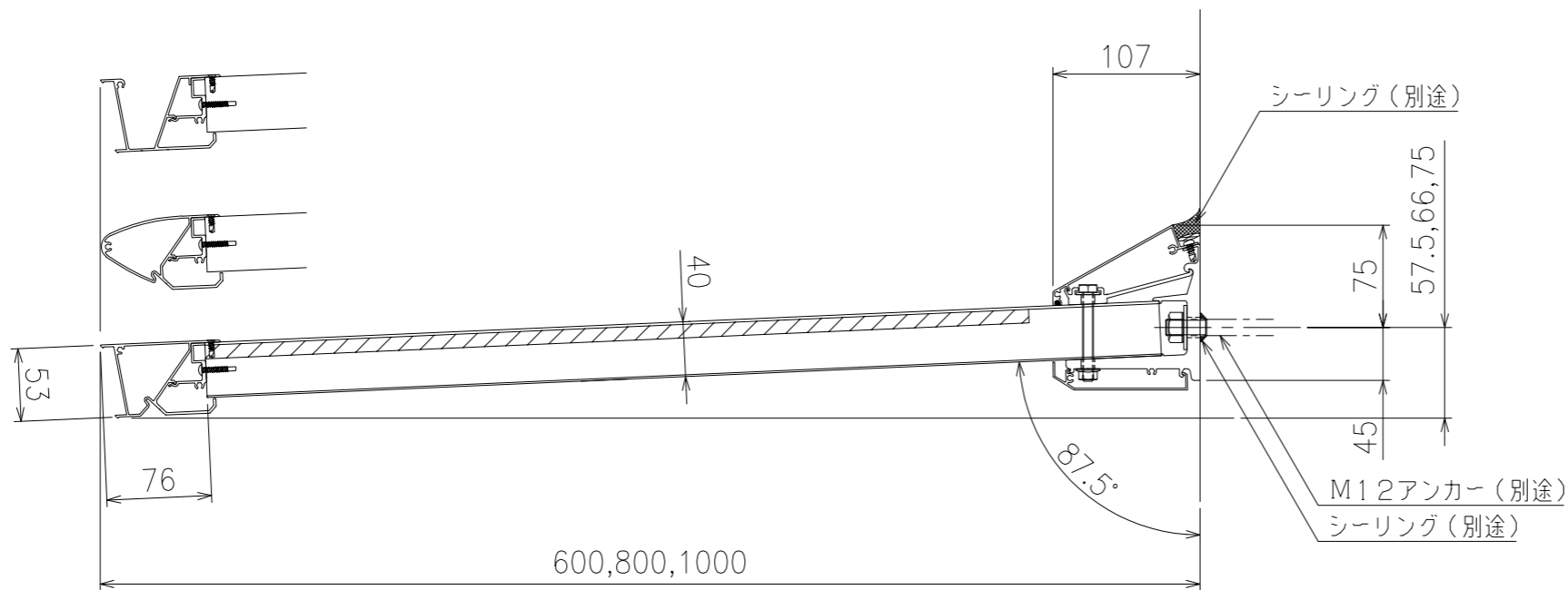


アンカー図

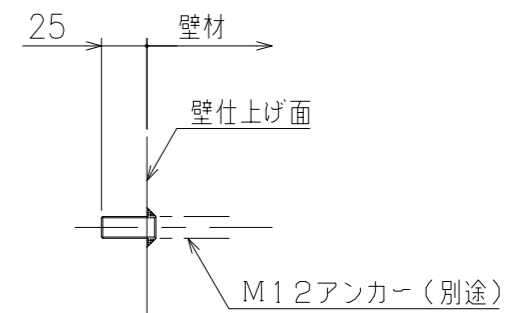
RS-KT型

RS-KR型

RS-K型



断面図 1:5



壁軸材アンカー取付要領 1:5

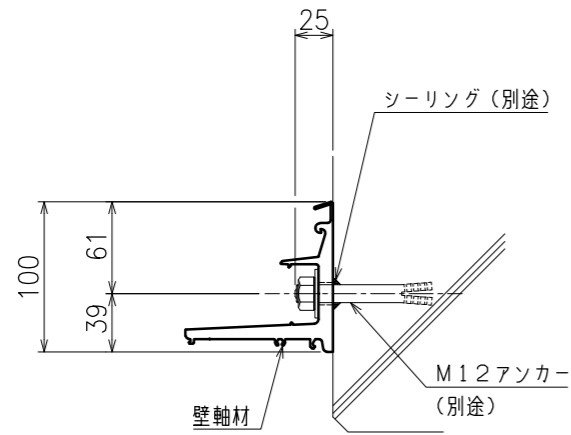
※RCアンカー使用時での必要埋め込み深さ等は使用するメーカーにて確認して下さい。

品目名称	Visor アルミニウム型材製底 RS-K型	工事名称				図番		頁	/
図面名称	平面図・正面図・側面図・断面図・アンカー図	日付	2018-08-20	尺度	1:20/1:5				

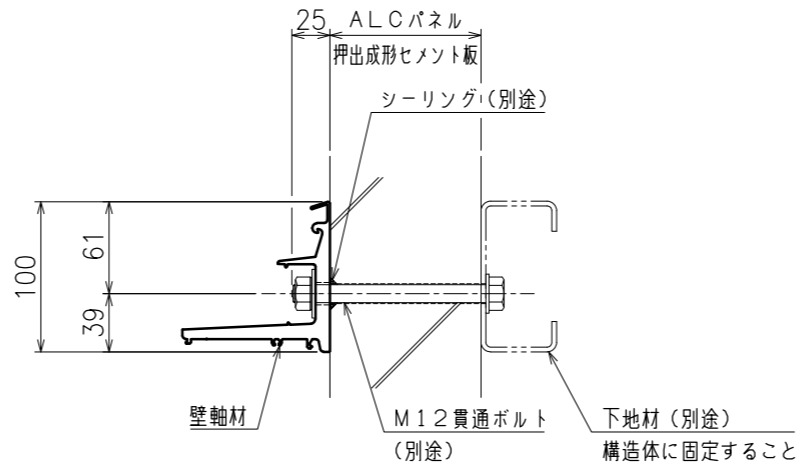


# ⚠ 注意

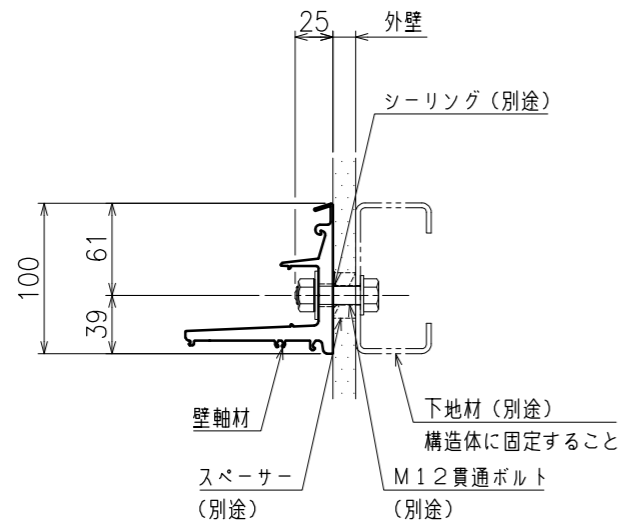
基本条件における一例です。  
 施工の際は必ず現場条件に合わせ、  
 十分な強度を確保した下地材・アンカーを  
 ご使用ください。  
 外壁がサイディングやタイル等の場合は、  
 外壁に直接負荷がかからないように、  
 スペース等を入れてください。



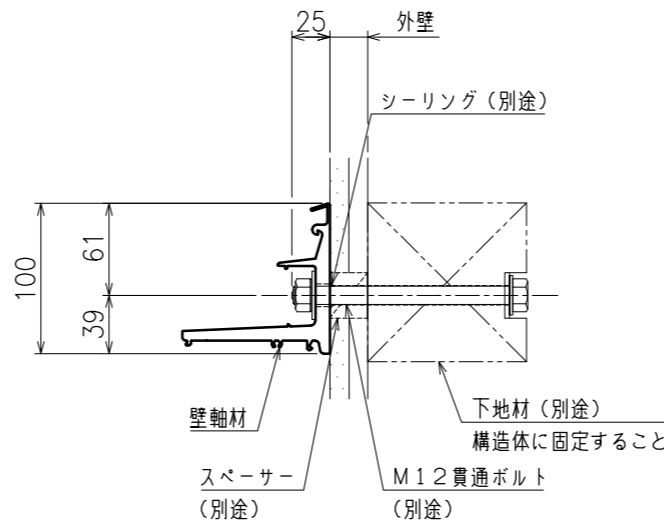
コンクリート下地に取り付ける場合



ALCパネル・押出成形セメント板に取り付ける場合



鉄骨下地に取り付ける場合



木下地に取り付ける場合 (貫通ボルト)

品目名称	Visor アルミニウム形材製庇 RS-K型	工事名称				図番	頁 /
図面名称	壁際納まり参考図	日付	2018-08-20	尺度	1:5		